

第3回 葛飾区地域公共交通会議 議事概要

日 時	令和6年2月5日（月） 10:00～11:50
会 場	葛飾区男女平等センター 多目的ホール
出席者	別紙「第3回葛飾区地域公共交通会議 出席者名簿」のとおり
会議の公開・ 非公開	公開
傍聴者	6人
配付資料	<p>資料1 葛飾区地域公共交通会議委員名簿</p> <p>資料2 地域公共交通会議について</p> <p>資料3 葛飾区地域公共交通会議設置要綱</p> <p>資料4 葛飾区地域公共交通会議の公開に関する取扱要領</p> <p>資料5 第2回葛飾区地域公共交通会議の追加報告に関する意見要旨</p> <p>資料6 「レインボーかつしか」（有72、有73、有74）の路線の休止について</p> <p>資料7 地域乗合タクシーさくらの車両更新に向けた経過報告</p> <p>資料8 都市計画道路補助第276号整備に伴う新規バス路線の開設について</p> <p>資料9 葛飾区の地域公共交通の充実に向けた取組について</p>
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 委員紹介 3 葛飾区地域公共交通会議設置要綱の一部改正について 4 第2回葛飾区地域公共交通会議の追加報告について 5 協議事項 レインボーかつしかの路線運休について（日立自動車交通株式会社） 6 報告事項 <ol style="list-style-type: none"> ① 地域乗合タクシーさくらの車両更新について（日立自動車交通株式会社） ② 都市計画道路補助第276号整備に伴う新規バス路線の開設について（京成タウンバス株式会社） ③ 葛飾区の地域公共交通の充実に向けた取組について 7 閉会

議事進行及び発言概要

次第 1 開会

葛飾区交通・都市施設担当部長より挨拶。

次第 2 委員紹介

資料 1 「葛飾区地域公共交通会議委員名簿」によって代える。
代理出席及び欠席者の紹介。

次第 3 葛飾区地域公共交通会議設置要綱の一部改正について

資料 2 「地域公共交通会議について」
資料 3 「葛飾区地域公共交通会議設置要綱」
資料 4 「葛飾区地域公共交通会議の公開に関する取扱要領」を事務局から説明。

次第 4 第 2 回葛飾区地域公共交通会議の追加報告について

資料 5 「第 2 回葛飾区地域公共交通会議の追加報告に関する意見要旨」を事務局から説明。

<質疑応答>

- 委員 12月1日から新しいダイヤで運行しているとのことだが、ウェルピアかつしかを8時台に運行する便など、同じ時間帯での利用者はダイヤ改正前後でどのくらい増減しているか。
- 委員 利用者の少ない状況が続いている路線だったため、減便しても1便あたりの人数はそれほど変わらなかった。
- 委員 了解した。
- 会長 前回(第2回)の会議で報告がなかったことに若干違和感を持っている。急にということは承知しているが、想定されていたのであれば、この場で議論をして意見を聞いて、可能な限り対応をして、できる限り影響のないようにということをお願いできる。そういった対話の場は非常に重要であり、それがこの会議の意義でもある。今後は事前に報告をいただきたい。
- 委員 第2回地域公共交通会議の場で、12月1日からの大幅減便の報告ができなかったことをお詫びしたい。2024年問題もあり、会議以降に予想外に多数の退職者が出てしまい、大幅減便をすることとなった。減便前に、沿線町会へは説明をして了解を得た。
- 会長 事情は理解した。人手不足と働き方改革が業界に大きな影響を与えていることも理解している。これからは対策・対応を皆様と一緒に考えながらやっていきたい。

次第 5 協議事項 レインボーかつしかの路線運休について

資料 6 「レインボーかつしか(有 72、有 73、有 74)の路線の休止について」を

日立自動車交通株式会社から説明。

資料6 補足資料1 及び2について、事務局から補足説明。

<質疑応答>

○委員 赤字額が700万を超えているということだが、赤字の補填があれば運行継続を検討する余地があるのか。それとも、赤字を補填しても運転手不足等によって再検討が厳しい状況なのか。

○委員 赤字額を補填していただいたら運行できるというわけではない。当該路線は利用者が少なく、運転手のモチベーションが上がっていない（働き甲斐がない）。また、赤字額だけを補填されても、会社を運営していくために適正利潤もなければならぬため、そのあたりを考慮しても運行を維持していく状況ではない。

○委員 了解した。

<意見交換（賛成）>

○委員 賛成として意見を申し上げたい。

本来は、公共交通事業者の使命として、利用者がいる限り運行をすべきではあるが、昨今の状況では厳しい。その背景として路線バスの収支の特徴で、利用者の多い少ないに拘わらずコストは（あまり）変わらないので、利用者が減った分だけそのまま減益となる構造がある。現在は年間収支が730万円の赤字であるが、もしレインボーの運行を継続するとなると、この乗務員不足の中では、他の収支が良好な路線があったとしてもこちらに乗務員を充てなければいけなくなり、これでは日立自動車の経営がおかしくなってしまうと思う。

それから、自主運行路線の休廃止は事業者判断でできるが、現状、赤字路線であることは、直近で突然に転落したのではなく、過去から継続的な赤字を背負っていたことが推測される。しかし、この路線は葛飾区からの依頼で運行を続けてきた路線であるので、同社が赤字でも頑張ってきたことも鑑みて、休止のご理解をいただきたいと考えている。

○委員 致し方ないと思っている。路線バスだけでなく、他のバス（医療的ケアバスなど）にも運転手が必要であることは理解している。ただ、ウェルピアかつしかへ自主で通所されている方、これから新規に通所される方には不便が生じると思うため、京成タウンバス新小51系統を鉄道と接続するなど、他の路線を使いやすくすることも重要と思う。

<意見交換（反対）>

○副会長 今回、賛否を諮っているのは運行休止そのものではない。特例の手続き

である。

運行休止になれば、その地域の交通利便に対する善後策を考える必要があるが、届け出期間が短縮されることで、その時間が十分に確保できなくなることを懸念している。

乗務員不足や赤字収支は理解しているが、運行継続の要望は変わっておらず、届け出期間の短縮の特例適用は認めがたい。

近傍路線を運行している京成タウンバス有 70 系統の増便、あるいは有 73 系統の代替路線の運行を改めて検討していただくことはできないか。

○委員 代走もしくは既存路線の増便を検討したが、乗務員不足で大変苦慮しているため大変困難な状況である。

4月からの働き方改革対応に向けて、現在ダイヤの見直しを行っているが、必要乗務員数を増やすことで、何とか今のダイヤは維持していこうと検討を進めている。

繰り返しになるが、今回の運休区間の代走や既存路線の増便は困難な状況である。

○副会長 ご事情・ご説明は理解した。ただ、現時点では代替交通手段の確保が難しい状況のため、レインボーかつしかの運休に対する特例適用については賛成できかねる。

<採 決> **レインボーかつしか路線運休届け出に係る道路運送法上の特例適用可否について**

○会 長 要綱第 6 条第 3 項に基づき、本日の出席委員総数の過半数の賛成をもって協議事項は可決となる。本日の議決権を持つ委員は 28 名で、過半数が 15 名以上となる。

賛成の方は挙手をお願いしたい。

○会 長 賛成は 17 名ということで、本件は可決された。

日立自動車關田委員に一言お願いしたい。

○委 員 ご理解いただきありがたい。当社としては苦渋の判断で、路線運行地域の皆様にはご不便をおかけするが、本会議で調整いただき感謝する。

いろいろな意見があったことは重く受け止め、残り少ない期間、当社としての精一杯のサービスを提供させていただく所存である。

<休止後について>

○委 員 レインボーかつしかは運行休止になるが、バス路線に設置されているバス停標識の占用については、今後の再開の見込みがなければ許可することはできない。道路原状復旧の上、取り下げていただきたい。既に運休している路線も同様である。

○委 員 了解した。

○会 長 しっかりと休止に関する周知等もしていただきたい。

また、一言申し上げたい。このような問題が今後も続くと、ますます悪い方向へ進んでいってしまう。サービスが悪くなれば、お客さんも離れ、赤字が膨らむと負のスパイラルとなる。こういった状況を何とか食い止める。欲を言えば、負ではなく、正のスパイラルへ持っていきたい。区民の皆さんにも、こういった事情があるということをしっかり理解いただいて、利用していただくことが重要と思っている。カーボンニュートラル、自家用車を使わない、ウォークアブルというような、公共交通を使った活動やまちづくりにも意識を向けていただき、利用促進等していただければと、区民の皆さんにも協力いただきたいと思う。

もちろん、バス事業者においても、運転手確保や利便性向上に可能な限り取り組んでいただき、必要であれば運賃等も見直し、収益構造の改善にもしっかり取り組んでいただいて、区民と事業者が手を携える形で、正のスパイラルへ向けていただければと思う。

運休する地域における対策も必要になると思うので、区が主体的に検討することになると思うが、区民それから事業者、皆さんの垣根を超えた一丸となった取り組みをお願いしたい。

○委 員 会長からも、街全体が負のスパイラルに陥らないようにというお話をいただいた。交通会議は旅客の利便性の確保が最大の目標なので、委員の皆様の英知を結集して務めていきたいと思う。

本区においても、持続可能なまちづくりということで、駅周辺のまちづくりを始め、都市計画道路の整備も行っている。併せて、地域の交通利便性の向上は、持続的なまちづくりのためには両輪だと認識をしており、負のスパイラルにならないようにすることが皆さんの総意だと思っている。今後とも地域の利便性に向けては、委員の皆様と一緒に、垣根を越えて前向きな議論ができるようお願いしたい。

○委 員 私たちは、NPO 法人として、シニアの居場所づくりをやっている。バスがなくなると、高齢者が一番困る。それに対して、今のところアイデアは出てきていないので、バスを使わなくても来ることができるような、近くに居場所をつくろうと展開している。待っているだけではなく、自分たちでできることはやっていかないといけないと思っている。

それと、バスの路線図に地区センターとか高齢者相談センターとかが掲載されていないところがある。路線の中にも高齢者の居場所があるということ PR していただきたい。

○会 長 区民の皆さんも頑張っただけということで、お出かけの目的地とそこへの交通手段、この組み合わせがまちづくりになるため、そのような議論もできればと思う。

○副会長 利用者にわかりやすくしていかないといけないということで、いただい

た意見を参考にしていきたい。2024年問題への対応も、今回の協議事項の案件も、その他いろんな問題を含めてこの会議のみなさまと真剣に考えていきたい。

- 会 長 最近ではMaaSなど、情報化を進めて移動・活動をサポートする動きもあるため、参考にさせていただければと思う。

次第6 報告事項 ①地域乗合タクシーさくらの車両更新について

資料7 「地域乗合タクシーさくらの車両更新に向けた経過報告」を日立自動車交通株式会社から説明。

<質疑応答>

- 会 長 地域の皆さんの利用を進めていただきたい。

次第6 報告事項 ②都市計画道路補助第276号整備に伴う新規バス路線の開設について

資料8 「都市計画道路補助第276号整備に伴う新規バス路線の開設について」を京成タウンバス株式会社から説明。

当社も乗務員の問題があるため、既存系統のエリアや役割が重なる部分については、利用動向を見極め、再編も含めて検討していく。

葛飾区内では、あと数年で人口減少の時代に入ると聞いており、バスの利用主体となる生産年齢人口は10年以上前から減少傾向である。そのような中で、前向きな形で公共交通をどのように維持していくかという観点でも検討を進めている。

<質疑応答>

- 会 長 並行する路線に関して、現状ではまずそのまま、今後影響があるかもしれないということによいか。
- 委 員 そのとおりである。
- 会 長 了解した。
- 委 員 この路線は新金01系統（金町～新小岩）のように土日だけか。
- 委 員 具体的なダイヤ等はまだこれからである。道路整備に合わせて新たなバス路線を検討しているというところである。
- 委 員 新金線の旅客化に期待しているが、当面できる予定がないので、このバス路線が有効と考える。

次第6 報告事項 ③葛飾区の地域公共交通の充実に向けた取組について

資料9 「葛飾区の地域公共交通の充実に向けた取組について」を事務局から説明。

<質疑応答（細田循環バス）>

○委員 細田循環バスについて、細田・鎌倉地区をよく車で走るが、段差のないやさしい点字ブロックに変わっていたり、細田踏切バス停に屋根がついたり、障害のある人にとって、とても歩きやすく、快適なまちづくりがされていることに感謝する。

<質疑応答（地域主体交通）>

○委員 グリーンスローモビリティは10月から実証運行を開始したが、なかなか利用者数が伸びておらず、見直しを行った。1日で四つ木コースと立石コースを網羅しようとする、利用しにくい、それぞれを独立させて1日運行するようにした。それにより利用しやすくなり、利用者は増加しているが、まだ知らない人もいるため周知を徹底していきたい。

ボランティア運転手は20名ほどの登録があり、11名くらいで回しているため、ある程度余裕がある。来年度以降は、さらに便数を増やすことができるようにやっていきたい。

徐々にこの取り組みが浸透しつつあると思うので、引き続き協力をお願いしたい。

○会長 1月16日から運行ルート・ダイヤを変更しているが、利用者からの声などを把握していれば教えていただきたい。

○事務局 まだ集計中のデータだが、立石コースは11～17名/日、四つ木コースは6～25名、従前は平均5名だったため倍以上に増加している。ただ、満足できる数字ではないため、より周知をして乗っていただくところを、協議会と協力しながら進めていければと思っている。

○会長 このような改善は常に重ねていかなければいけないと感じた。

<まとめ>

○会長 皆様のご理解のもとで、できるだけ影響のないようにより良いものへということを進めていかなければいけないということ再認識した。区、住民、事業者、その他関係者が一丸となって、より一層有意義な議論をして少しずつでも改善ができていけるような、そういう協議ができればと感じた。

次第7 閉会

○事務局 本日の配付資料は、葛飾区公式ホームページにこれ以降掲載予定である。次回会議の委員も引き続き務めていただく予定だが、次回会議の日程は未定であり、改めて連絡をする。